



半透明の傘ヒラヒラ 国東、泉福寺の池 マミズクラゲぷかぷか

淡水域に生息「神出鬼没」の生き物



①泉福寺の池に現れた直径2㍓程度のマミズクラゲ②泉福寺の池と最勝孝道住職＝国東市国東町

【国東】淡水域に生息する珍しいクラゲ「マミズクラゲ」が、国東市国東町横手の泉福寺の池でぷかぷかと泳いでいる。県内での確認は珍しく、最勝孝道住職(83)は「9月末頃までいるのではないかと池に落ちないように気を付けながら見てもうえればうれしい」と話している。

マミズクラゲは、世界の暖かい地域の池や湖に広く分布。同じ場所に毎年出現するとは限らないため、「神出鬼没の生き物」として知られている。クラゲの形状になってからの寿命は1〜2カ月程度とされる。

最勝住職が寺で初めてマミズクラゲを見つけたのは、2010年8月。16年まで毎年夏に現れていたが、暑さで池の水が濁るよ

うになってからは見かけなくなってしまう。またクラゲに戻ってきてほしいと願い、23年9月に大規模な池のしゅんせつを実施。それから3年、今月1日の朝に突然現れて驚いたという。

17日、泉福寺の池には、半透明の傘をヒラヒラさせながら浮いたり沈んだりしているマミズクラゲが数百匹いた。千葉県浦安市から



《マミズクラゲ》真水水母
この池に生息している真水水母は、暑さで水が濁ると姿を隠す。実際に見ると、傘の直径は5cm程度から、成長したものは、傘の直径が10cm程度まで達する。また、傘の縁には触手があり、これを使って餌を捕らえている。

遊びに来ていた最勝住職の孫、向井庵さん(8)＝顔写真＝は「とってもかわいい。夏休みの自由研究にする」と喜んだ。

20年以上にわたりプランクトンの研究をしている元高校教諭(生物)の細井利男さん(83)＝大分市＝は



「10年以上前に(同市横尾の)高尾山で生きたマミズクラゲを見て以来、2度目。泉福寺の池に現れる理由は分からないが、とても貴重な場所」と述べた。

(佐藤英司)





〔問①〕記事の内容をたしかめましょう。（ ）にあてはまる言葉や数字の記事から探して書きましょう。（※かっこ内には言葉や数字を入れてください。）

いつ : 2026年8月（ ① ）日の朝、

どこで : 大分県国東市国東町にある（ ② ）の池に

何が : 淡水域に生息する珍しいクラゲの（ ③ ）が現れた。

様子 : 半透明の傘をヒラヒラさせながら、（ ④ ）匹ほど泳いでいる。

①

②

③

④

〔問②〕そのクラゲは、なぜ「神出鬼没（しんしゅつきぼつ）」と呼ばれていますか？

〔問③〕マミズクラゲが生息している淡水域の「淡水」とはどういう意味ですか。調べて書きましょう。

〔問④〕大分県の中にこんな珍しい生き物がいることについて、あなたはどう思いましたか？地域の自然を守るために大切なことは何だと思いますか？